ワーズワースの庭で

At the Garden of Wordsworth

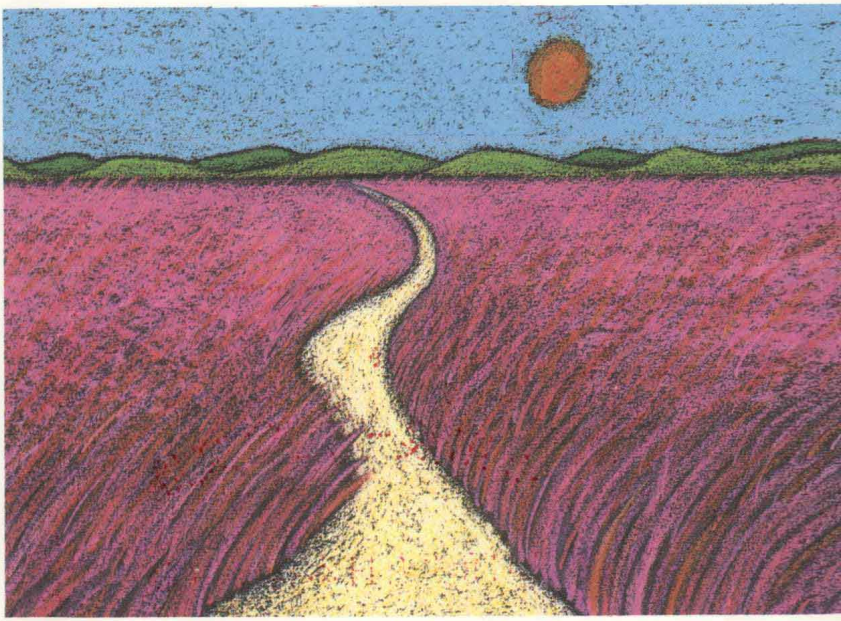
松山 猛
&
フジテレビ
「ワーズワースの庭で」

ワーズワースの庭で

At the Garden of Wordsworth

松山 猛
&
フジテレビ

「ワーズワースの庭で」



フジテレビ出版

著者紹介

松山 猛

1946年京都市生まれ。1964年京都市立日吉ヶ丘高等学校美術課程洋画科卒業。グラフィック・デザイナー時代に、フォーククルセイダーズと共に「帰って来たヨッパライ」を作詞。1970年代より雑誌編集に関わり、堀内誠一氏らと共に「アンアン」「ポパイ」「ブルータス」創刊に関わる。

現在「時計芸術研究所」所長として、時計学を研究発表する一方、『ワーズワースの庭』にも出演。主な著書『贅沢の勉強』『五感の杯』『都市探検家の雑記帳』(文藝春秋)『せらみか』『おろろじ』(風塵社)『路上の宝石』『知の粥と思惟の茶』(青英社)

『ワーズワースの庭で』

1994年3月10日　初版第1刷発行

発行人：村上光一

発行所：株式会社フジテレビ出版

発売：株式会社扶桑社
〒162 東京都新宿区市谷台町6番地
☎03-3226-8880(代)

印刷・製本　図書印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。
乱丁・落丁本は扶桑社販売部（書籍）宛にお送りください。
送料小社負担にてお取り替え致します。

©1994 ㈱フジテレビ出版　Printed in Japan
ISBN4-594-01360-0

ワーズワース憲章

1. 繁忙なる人生にあっても、
道楽＝Way Of Happy Life への道しるべを
見落とさざるべし。
2. その道楽をして社会に笑いと幸福感をもたらすべし。
道楽は即ち幸福の種子である。
3. 新奇な物、異文化のもたらす物にも
常に好奇心を持ち心を開くべし。
4. ワーズワースの庭に通じる入り口を、
心眼にて見分けるべし。
5. もしその秘密の扉をみつけた場合は、
ただちに日常生活を休止し、
ただちに扉の内にはいるべし。
6. 人をして歓喜させる「物・象」の背後に居る
人間そのものを忘るるべからず。
あらゆる人生のディテールに思いを寄せるべし。
7. 遺伝子に伝わる、好奇心、趣味心、遊び心のDNAの
眠りを覚ますべし。
8. 知栄の遊び、からだの遊び、そして魂の遊びを
求め続ける体力、知力、気力を保ち続けるべし。
9. 人生、いかなる局面においても、
是全般に洒落のめすべし。
10. もし道楽者ゆえの中傷非難にあうとも、
心の中に次の言葉を満たして心乱すなかれ。
——「スカンタコ、スカンタコ」……。

そして
道楽者でありながら、道楽からも自由であるべし。

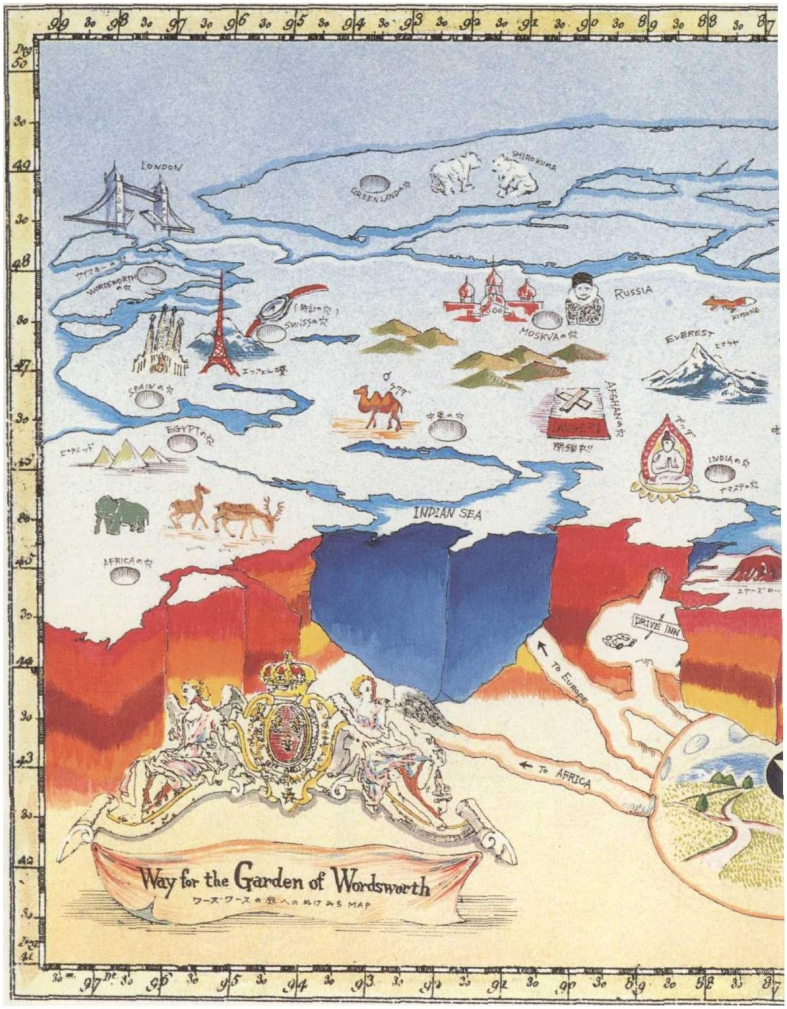
【ワーズワースの庭】へ、ようこそ！

ウィリアム・ワーズワース。一七七〇年にイングランド北西部のレイク・ディストリクトに生まれた彼は、夢多き青春時代をフランス革命への情熱に掛けて送りました。生まれながらの詩人であったワーズワース。革命の理想は現実によって破れ去り、彼は故郷の湖水ゆたか草深き地方に引っ込んでしまいます。

でも、ワーズワースの想像力はそこでそれまで以上に自由に、ゆたかに、飛翔していったのです。一八五〇年に八〇歳の生涯を閉じるまで、ワーズワースは友人や野や花や湖や星座にかこまれて詩作に耽り、紅茶を楽しみ暮らしたのです。

「ワーズワースの庭」、それは、大人のための、自由で不思議な

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo

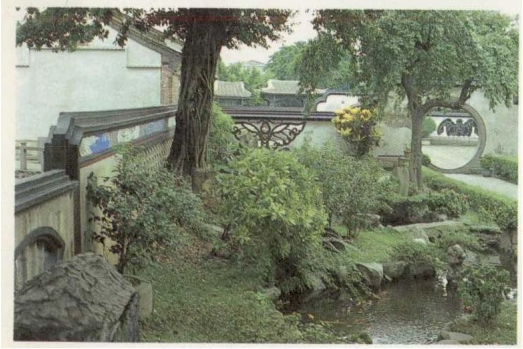


遊びの空間。遠い昔に置き忘れてしまった、甘ずっぱいいたずら心、思いっきり背伸びして、気後れするようなフォーマルな空間に初めて入り込んだ時の頭が燃えだしそうな興奮。どうしてもこだわってしまう、あるフォルムと色彩と香りを、誰に気兼ねすることなく集め、愛し、あるいは壊してしまう快感……「道楽者」と、世間からあるいは羨望の、あるいは嘲笑の声を浴びせられた時の、言いようのない誇らしい気持ちにあふれた場所。

普通の生活の、ごく当たり前な空間のどこかに、この庭への入り口が隠されています。さあ、扉を開いてみて下さい。そこにはきっと、遊び好きの仲間たちが、たくさんのヒントを抱えて、手ぐすねひいてあなたを待っているはずですから。

ガーデンライフ

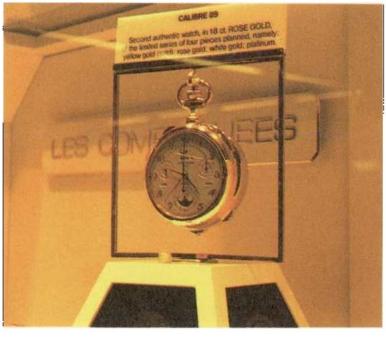
庭は自然と人が対話する場所、
そしてうつろいをじっくりと味わえる場所。
ワーズワースの庭では
思いもかけないことが次々に起きるけれど、
あなたの庭でも、それに負けないくらい
いろいろなことが起きる。
自分の庭を、まず作るべし。



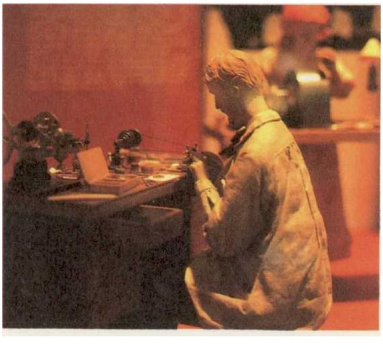
上／台北の故宮博物院に隣り合わせになった「至善園」は、スケールの大きな緑の庭だ。回遊式の庭は、宗朝時代の人々の好みの世界にいざなってくれる。亜熱帯の島のそれはオアシス。下／中国の庭は大自然の写し絵だ。台北南郊板橋市にある「林家花園」は、中国南部、福建省地方の様式が色濃い。台湾に清の時代に渡り、事業を大成功させた林家の主人が、ふる里をなつかしんで造った大庭園のある住宅で、四季に花咲く夢の家である。いったいどんな趣味が、当時は花咲いたのだろうか。蘭の花を見るためだけの建物とその前庭。楽士の音楽を聴いただろうバルコニー。小さいが完結した幸福の庭がそこにはあった。

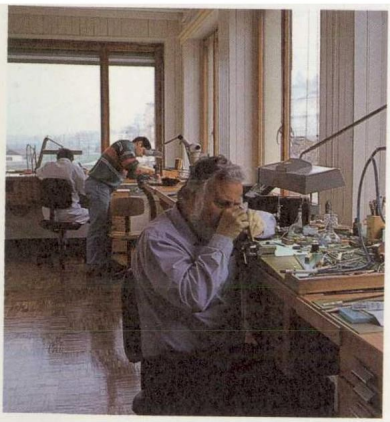
時計

永遠に子供の心を持ち続ける男の物欲は、
華美や華麗なものばかりでなく、
小さな音を奏で続ける細かい技術の結晶に向かいます。
時計の愉しみ、それはとても個人的で、
そして決定的な、愉しみなのです。



上／パティック・フィリップ社が、創立150周年を記念して制作したキャリバー89は、とてつもない複雑機能時計である。時、分、秒の他に、均時差（平均太陽時）気温計、ストップウォッチ、星座の運行、日の出や日の入りの時刻などを知らせる。時価4億円也とか。
下／時計師の仕事場を再現したミニチュアがあった。

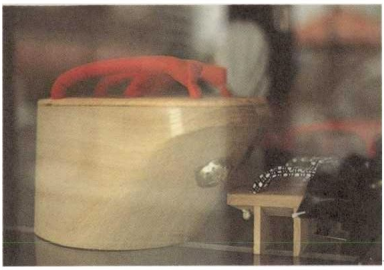




上／スイスの首都ベルンのシンボルは、旧市街にある時計塔。ご覧のような天文時計と、自動人形が組合わされた巨大な時計で、毎日係の人が400キログラムもある動力の重りを手動で引き上げるのだそうだ。一日の二十四時間、惑星配列、曜日、その時期のホロスコープ、月齢などを読む大時計に合わせ、毎正時ごとに、時の神が砂時計を反転させ、ニワトリが時の声をあげ、熊のパレードが回転する楽しいものだ。

下／スイス時計メーカーのアトリエの多くが、自然と隣接した小さな町にある。静かな環境の中で、素晴らしい時計が、こつこつと手作りされているのを見るのは楽しい。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo



右／真冬の京都南禅寺の早朝。底冷えに加えて雪が降り積もった。寺院めぐりの観光客などひとりもいないこんな朝こそ、京都を味わうのに良い。この南禅寺から知恩院の山を南へ越えた円山のふもとに、祇園の町が広がっているのだ。左上／東山界隈の料理屋さんの前庭に、赤い毛氈を敷いた床机が置いてあった。昔ながらの煙草盆、そして水を打った庭、眼に鮮やかな緑の濃さ。タイムスリップできる空間が京都には多い。左中／祇園といえばだらりの帯の舞子さんだ。彼女らが履く「ぽっくり」は、桐の木で作った和風ハヒイールである。祇園には「ぽっくり」を作る専門店「丁屋（ちょぼや）」があり、流行の和製履物もたくさんある。
左下／これも京都風物。犬矢来は竹で作ってある。べんがら色の土壁も、祇園らしい色彩だ。男たちのあこがれの国祇園も、ワーズワースの庭へのひとつの入り口にちがいない。

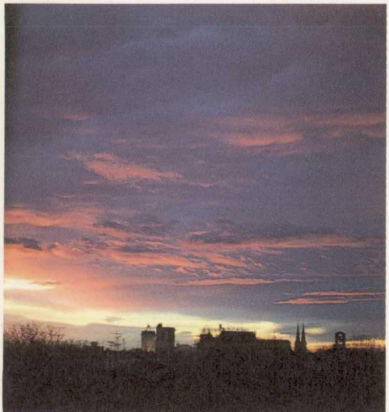
祇園

気分だけで遊んでも楽しいけれど、
奥を極めれば無限に広がる世界は確かに、ある。
でも、そこにはまりこむには勇気とお金だけじゃなくて、
才能も要るということを、忘れずに。

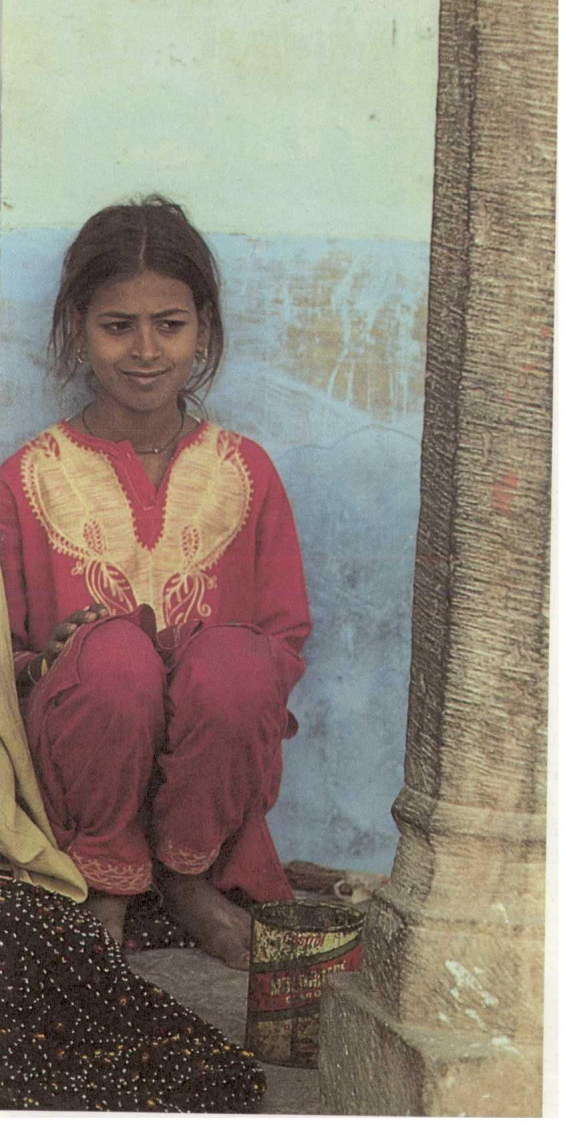
プロヴァンス

プロヴァンスに暮らしたい。
でも、セニョン村に移住することはない。
どこにいたって、
ちゃんと自分たちの
昔ながらの流儀で暮らせば、
それでいいんだから。
でも、それが一番、難しい……。

左上／典型的なカマルグの民家。白い壁、赤茶の屋根瓦、青い空の下に糸杉。日よけの板戸のある窓。左中／プロヴァンスの色彩といえば、ソレイヤードに代表される更紗地がある。これはソレイヤード博物館に展示された、昔の染料の入ったガラス瓶だ。多くの画家が、この明るい色彩の似合う土地にあこがれて、プロヴァンスに住んだ。今も土の香りのする、人間的な暮らしにあこがれる人は多い。
左下／プロヴァンスの夕暮れ時は美しい。野性が宿る土地だけに、無粋な煙を吐く工場もない。アルフォンス・ドーデの「風車小屋便り」の時代から、少しも変わらぬ美しい夕焼けに見とれよう。

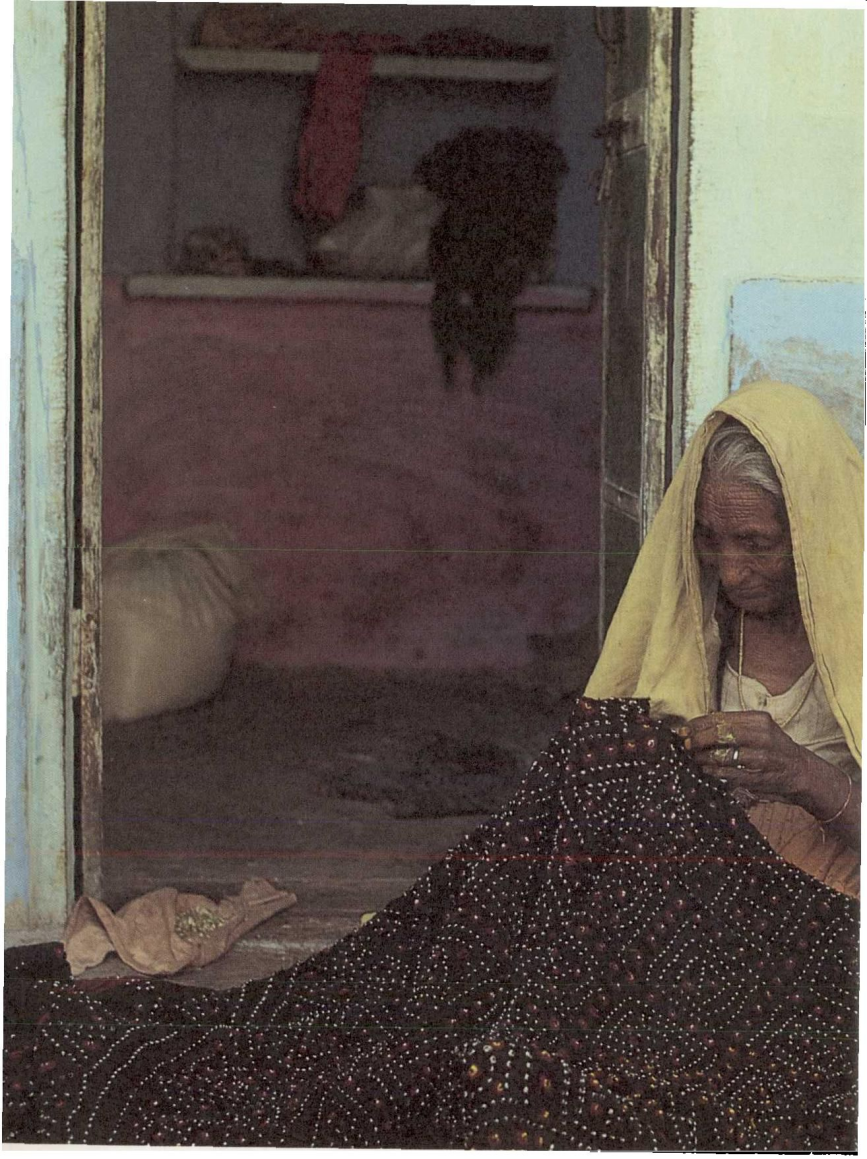


上／南仏の古都ニームから、山上の町ユゼスへ抜ける街道で見かけた人は、近くに買い物に行ったのか、自転車の荷台にバゲットを積んでいる。ああのんびり時のたつプロヴァンスであることよ。右下／ニームのシンボル、アレーナはローマ帝国時代の競技場だが、今でもオペラや闘牛を見せる現役の野外劇場でもある。



着物

着物によって、帯によって、
固められたような気分になるなら、
それは着物を着たことになりません。着物によって解放される。
そして気持ちを人に伝えるというのがどういうことなのかを体で知る。
着物って、とってもセクシーなんです。



大インド砂漠のはじまる、ラジャスターン地方は、伝統工芸の宝庫だ。ジャイプールの西、バグルーの村では、絞り染めがさかんにおこなわれている。おばあちゃんの仕事ぶりを見ている孫娘も、やがては見よう見まねで絞りを作るのだろう。人間はその手先から、何でも作り出せるのだな。インドへ行くと、人間のえらさがよく見えてくるのだった。

目次

序章　道楽・・・・・・・・・・・・・・・・17
第1章　紅茶・・・・・・・・・・・・・・・・31
第2章　時計・・・・・・・・・・・・・・・・51
第3章　おしゃれ・・・・・・・・・・・・・・71
第4章　プロヴァンス・・・・・・・・・・・・91
第5章　和風雑貨・・・・・・・・・・・・・・113
第6章　居酒屋・・・・・・・・・・・・・・・133

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo